

1. 第1病棟（認知症病棟）の現状

西香川病院第1病棟は認知症センターをめざすことを目標とし、認知症患者に対して、より良質なケアを提供するためにユニットケア（個々の患者に応じた小単位での個別ケア）の考え方を取り入れ、病棟運営を行なっている。H16年度に増築したデイルームを重度患者のユニットとし、また、機能訓練棟の1部屋を改装して、比較的軽度の認知症患者約15名のユニットとして運用している。そして、残りの病棟を区切ることで狭い病棟を有効に活用し、少しでも療養環境を改善し、ユニットケアに近づけるように試みている。

しかし、狭い廊下と居住空間、トイレが中央とホール、デイルームにそれぞれ1ヶ所、入浴場所が1ヶ所のみという現在の状況は、他病棟あるいは他病院と比較しても著しく劣悪である。デイルームなども含めた患者一人当たりの面積は、療養病棟1階が14.4m²に対し、第1病棟は9.2m²である。つまり、30人が利用している療養病棟1階よりもはるかに狭い病棟に50人（平成17年度平均患者者数49.9人）を押し込めているというのが現状である。

狭さゆえの喧騒状態が夕食前の時間帯には特に強く、何かのはずみに興奮した患者どうしの暴力によるトラブルは後をたたない。トイレが少ないための放尿による悪臭は病棟に充満し、そこでの長期の「生活」は患者にとっても職員にとっても不幸としか言いようがない。上記のごとくの工夫により療養環境改善を図ってきたが、現在の施設環境においては工夫も限界であり、とても患者の尊厳を重視したケアを議論できる環境ではなく、職員の働く意欲を保つことさえ困難である。

認知症患者が長期にそこで「人間的に暮らす」という視点から、抜本的な改善が早急に必要である。

2. 増築の内容

- ・第1病棟（認知症病棟）の南側に20床分の病棟を増築

病室（20床分）、デイルーム2部屋、浴室2、便所（病室毎）他

- ・構造および面積 鉄筋コンクリート造平屋建 延床面積（増床部） 689m²（202.1坪）

3. 期待できる効果

(1) 療養環境および職場環境の改善

病棟を1ユニット10名ずつの5ユニットとすることができ、個々の認知症患者に応じた、理想的なユニットケアが実施できる。また、各部屋にトイレを設置し、トイレまでの動線を短くすることにより放尿が防止され、悪臭の改善が期待できる等、療養環境を大幅に改善することができる。

また、職員の働く意欲や向上心も鼓舞することができ、これは直接、より良いケアに結びつく。

(2) 認知症センターとしての整備

地域における認知症の中核施設として、見学や研修に対応し、三豊市における認知症ケアのレベル向上に寄与できる。

(3) 収益の改善

面積増により上位施設基準である「認知症疾患治療病棟1」（1人あたり23m²）を取得することができ、年間約3千万円の収益増が期待できる。

試算（平成18年4月改定に基づく）

1人1日あたり	認知症疾患治療病棟2	認知症疾患治療病棟1
入院基本料（入院90日以内）	10,600円	→ 13,000円（2,400円増）
”（同90日超）	10,300円	→ 11,900円（1,600円増）

90日以内の患者数10名、90超の患者数40名として、年間 32,120,000 円の増収が見込める。

4. 事業費（概算）

- ・工事請負費 190,000千円 設計委託料等 13,000千円